

## 20世紀と舞踊 —混合の模索—

佐藤俊子

はじめに：1991年、東京にダンス・ブームが押し寄せた頃、筆者はアメリカで最も舞踊の盛んな州と言われるユタ州の大学に招かれ、種々の舞踊実技や理論が大学の正規の授業の一環として行われ、舞踊の普及と研究に大いに寄与している様に驚嘆していた。そこで筆者は中級バレエ、舞踊史、学期末のショーケースの振付等を担当したのだが、インターナショナルな舞踊とともにあるとき、いつでもどこでも行動を起こせるのだという幸せを実感した。だが、そのためには世界が平和でなければならず、鉄のカーテンが国境を閉ざすことがあってはならないということも改めて痛感した。筆者の恩師オリガ・サファイアがスターリン政権下に日本に移り住み、世界が平和でない故に一度の里帰りも果せぬまま他界した事を思うと、一層感慨無量であった。

舞踊は混合の所産：ギリシャの昔から、舞踊はきわめて複合的な芸術であり、幾重にも混合の所産である。ことばに置きかえられる主張や決断もことばにはならない情感も、音楽、絵画、文学、演劇、すべてが舞踊から流出し、舞踊に帰る。それはまた最も容易に国境を越えることができ、異民族が平等の立場でコミュニケートできる全人類の共通語である。そこではうそもかけひきも通用しない。今や政治や経済はもとより、万事が一国内で充足できる時代ではないとすれば、地球規模の視点に立って飛翔する舞踊はもっと注目され、研究されねばならないと思う。

混合の模索は国境を越えて：19世紀を風靡したロマン主義は、ポアントとチュチュを考案し、「ジゼル」の台本を書いたゴーチエを筆頭にバレリーナ全能の風潮を作りあげた。しかしこの男女差別の悪しき習慣はまもなくバレエをたわいない見世物に衰退させた。その上、プティパが枯渇したヨーロッパを見捨ててロシアに赴くと、おのずとバレエの中心はパリからペテルブルグへ移る。半世紀に及んだプティパの献身と宮廷の保護により、ロシアは短期間のうちに世界一の水準を誇るに到り、空洞と化した西欧にやがてバレエ復興をもたらす実力を貯えていた。事実、20世紀のバレエは、日本も含めて、ことごとくロシアの良質な種子に負っているのである。20世紀前半は、ディアギレフの種蒔きの時代、20世紀後半は平和と

ジェット時代の恩恵のもとにあつて、地球規模の交流の時代である。

ディアギレフは1909年から1929年までの20年間、フォーキン、ニジンスキー、マシーン、リファール、バランシンという逸材を育てながら、かつその周辺にストラヴィンスキー、アンセルメ、ファリヤ、ピカソ、コクトー、サティ等20世紀のモダニズムを開拓した多国籍の大物を集めながら、よくヨーロッパに留り、かつ大戦をもエネルギーに逃れて、スイス、スペイン、アメリカとバレエ団の行動圏を拡大した。その急逝でバレエ団は崩壊するが、その崩壊によって空高く吹き飛ばされた分子は世界中に散り、バレエの混合と国際化に一層の拍車をかけた。20世紀後半の舞踊史はわれわれが戦後と呼ぶ時代であり日本も無関係ではない。筆者自身、手探りをしながら舞踊に連なり、ロシア人に師事して無意識のうちにバレエの伝統に深くかかわっていった時代であり、他人事とは思われない。世界中、バレエ団はどこでも誕生したばかりであり、ダンサーはもとより、振付師の育成が急務であった。ロシアに封じ込まれたグラン・バレエが西側に姿を見せるにはまだ時間を要した。幕を上げるには新作を提供する舞踊作家が必要であった。これについては別紙資料を用意してその分布を示すつもりである。

20世紀は舞踊の世紀：20世紀の前半、人々は二度までも世界規模の大戦を経験し、うそとかけひきのみが堂々と通用する外界に失望し、たえず不信と懐疑と不安にとりつかれていた。長い人類の歴史が築きあげた過去の栄光も価値観も信用ならないものとなり、若者は暗中模索を強いられた。外部にすがれる堅固なものが何一つなく、外部の世界が信用ならないならば、人は限りなく内部の世界に降りていくよりほかはない。現実を悪夢と斥けながら続けられる狂おしい自我の探求がジャンルを問わず、20世紀芸術の共通の課題となる。雄弁より沈黙が、外向的対話より内的独白が求められる。それはまさしく舞踊の世界でありその意味で舞踊は時代の本質的特徴に最もよく沿っていたのである。

舞踊の「間」は自分の呼吸である。それは決して信用ならない外からの借り物ではない。舞うとは誰をも頼らず、誰をもあてにせず、自分ひとりの決意で自分が舞うということであり、迷わない自分、躊躇しない自分、思いきりのいい自分とのつきあいである。舞踊の舞台とは、うそもかけひきもない、透明な強い真実の世界である。透明な強い真実は言語も民族も国籍も容易に越える。国境も男女不平等も人種差別もない、舞踊という混合の模索は実り多い混合の調和をもたらし、世界平和の実現に連なるものであると思う。